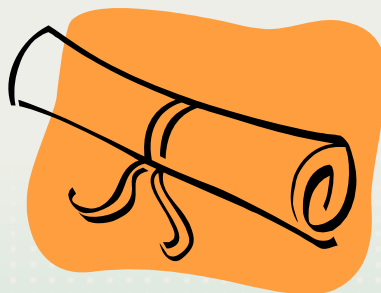


品質見える化ツール導入の壁 ～乗り越えるための3つの秘訣～



キヤノンソフトウェア株式会社

伊藤 浩子

概要

背景：テスト工程に入ると進捗や品質が見えない

課題：品質見える化ツールの導入推進をしたが
利用が進まず、利用しても有効に使えない

問題分析と施策：課題を乗り越えるための3つの
秘訣をご紹介します

効果と今後の課題

背景

プロジェクトがテスト工程になると、
途端に進捗や品質が見えにくくなり
問題が潜在化する



納期
遅延

品質
低下

コスト
増加

ツール導入の経緯

2006年4月

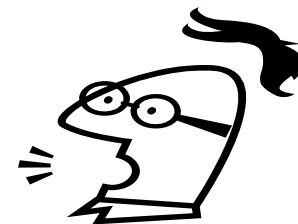
グループ会社で使われていたツールを導入

- ◆説明資料、マニュアル整備、説明会の実施
- ◆サポート窓口／Webサイト開設

2006年12月 導入プロジェクトへのヒアリング

有効に使われていない

なぜ!?



ツール利用の相違

	グループ会社	当社
評価体制	第3者評価	開発内評価
拠点	分散拠点	同一拠点
検証者	品質のプロ	開発者

問題分析と施策

使用負荷が高い

<分析>

<施策>

開発体制に
合わない

プロセスにうまく
組込めない

①機能を絞る

②導入を助ける

結果を活用できない

グラフの見方が
分からない

③研修で教える

④使って見せる

施策①

①機能を絞る

ワークフロー機能をなくし、簡易的なものに

手入力を極力なくし、プルダウンで選択入力

グラフ化する項目を4項目にしぼり入力項目を削減

施策①

1. Simple is the Best

ツール
改善

ワークフロー機能をなくし、簡易的なものに

ツール
改善

手入力を極力なくし、プルダウンで選択入力

The screenshot shows a software window titled "障害管理票" (Defect Management Form). It contains several sections for data entry:

- プロジェクト情報 (Project Information):** Includes fields for "顧客システム名" (Customer System Name), "顧客名" (Customer Name), and "プロジェクトID" (Project ID).
- Metadata:** Includes "No.", "障害管理番号" (Defect Management Number), and "ステータス" (Status).
- 障害概要 (Defect Summary):** A table with columns for "発見日" (Discovery Date), "発見者" (Discoverer), "発見工程" (Discovery Process), "発見テスト名" (Discovery Test Name), and "初期分類" (Initial Classification).
- 障害対応判断 (Defect Response Judgment):** A table with columns for "対応有無" (Response Status), "影響度" (Impact), "緊急度" (Urgency), "処理分類" (Processing Classification), and "開発担当" (Development Responsible).
- 原因分析 (Cause Analysis):** Includes fields for "調査日" (Investigation Date), "調査者" (Investigator), "不具合の埋め込まれた工程" (Embedded Defect Process), "原因分類1" (Cause Classification 1), and "不具合種類" (Defect Type).
- 対応情報 (Response Information):** Includes fields for "対応日" (Response Date), "対応者" (Responder), and "対応分類" (Response Classification).
- 再評価 (Re-evaluation):** Includes fields for "テスト日" (Test Date), "テスト結果" (Test Result), "完了確認" (Completion Confirmation), "最終分類" (Final Classification), "完了日" (Completion Date), and "完了確認者" (Completion Confirmer).

施策①

1. Simple is the Best

ツール
改善

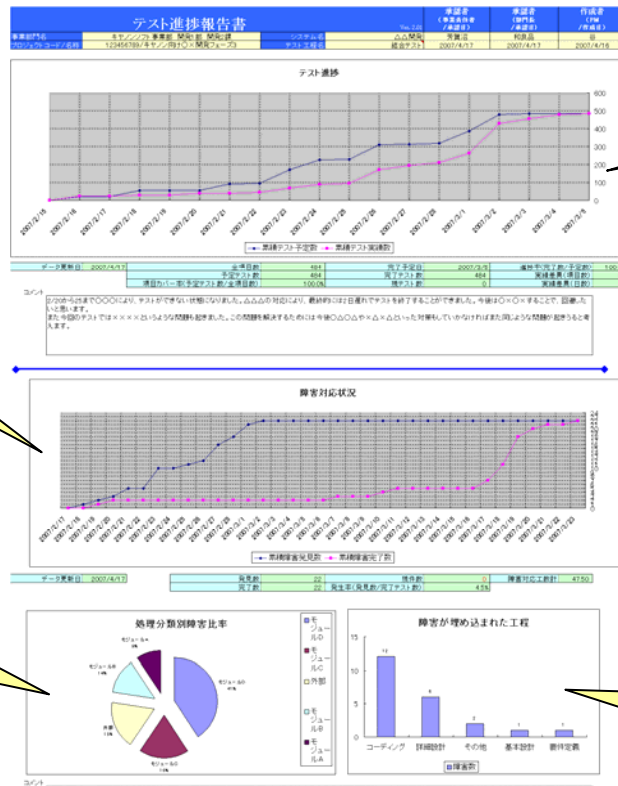
グラフ化する項目を4項目に絞り入力項目を削減

障害件数と
対応完了数

テスト進捗

障害が多い
場所

障害が多い
工程

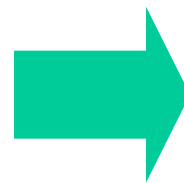


施策②

2. 手取り
足取り

②導入を助ける

~~ツールの
使い方~~



プロセスへの
組み込み方

施策②

2. 手取り
足取り

②導入を助ける

例1)顧客提供の障害管理システムとの連携

ツール
改善

顧客の障害管理システムからCSV形式でデータをダウンロードし、品質見える化ツールに取り込むための連携ツールを開発。

支援の
改善

テスト工程における役割定義、業務フロー、ルール策定の支援

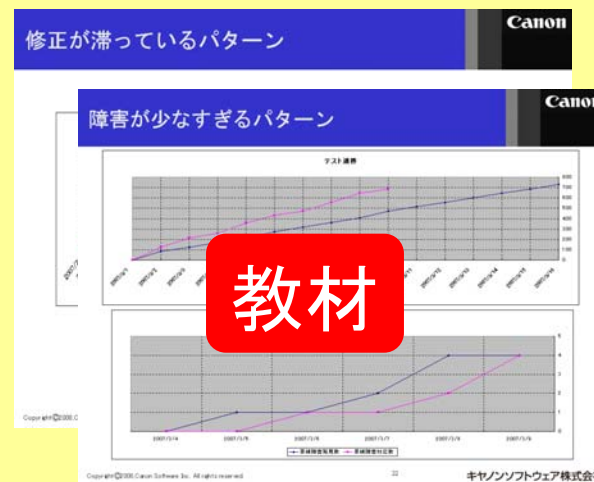
施策③

2. 手取り
足取り

③研修で教える

支援の
改善

PM内部研修の中に1コースを開設。
年2回の定期開催。
教材はWebからダウンロード可。



施策④

3. 効果の
見える化

④使って見せる

支援の
改善

全社プロジェクト推進会議※の推奨ツールとする。

会議の場でグラフを見て、意見・アドバイスを実践する。

効果を実感した上位管理層が自ら利用を促進。

※大型受託開発の進捗や品質を見る全社的な会議。

効果①

- 導入プロジェクトが増加

	2006年	2007年	2008年
小型プロジェクト	6	6	たくさん※
事業部	0	1	4
大型受託開発	0	0	2

組織的な導入が進んだ

※利用申請をなくし、Webから自由にダウンロード可としたため、正確な利用者数は把握していない。

効果②

- 問題の早期発見

例1) 要員を追加投入するかどうかの検討

例2) どの工程までさかのぼってやり直すかの検討

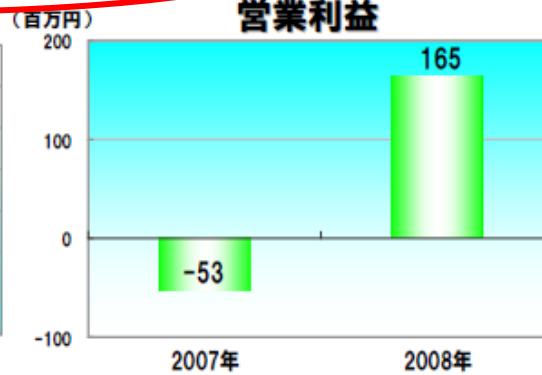
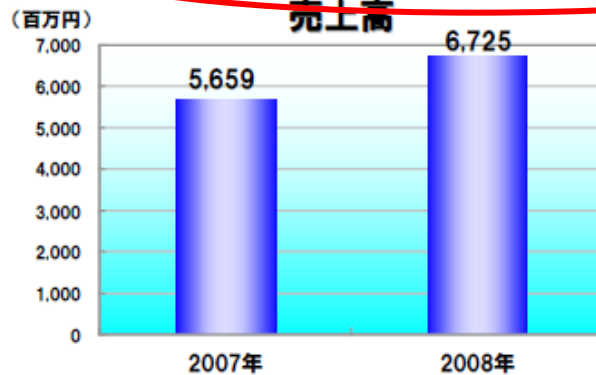
例3) 障害の極端に多いモジュールの作り直し検討

効果③

●失敗コストの減少

売上2ケタ成長 + 連結子会社の黒字化による利益改善

- 売上 67億25百万円（対前年118.8%）
 - 連結子会社の拡大（グループシナジー効果）
 - 基幹システム構築支援関連の売上も堅調に推移
- 営業利益 1億65百万円
 - 連結子会社の利益改善（黒字化達成）
 - ソフト開発の効率化が進む（不採算の減少）

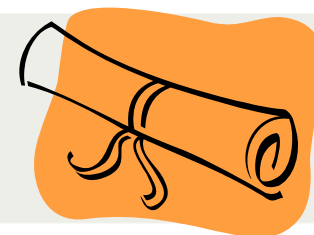


キヤノンソフトウェア株式会社

© Canon Software Inc., 2008

5

まとめ(秘訣)



Simple is the Best

手取り足取り

効果の見える化

今後の課題

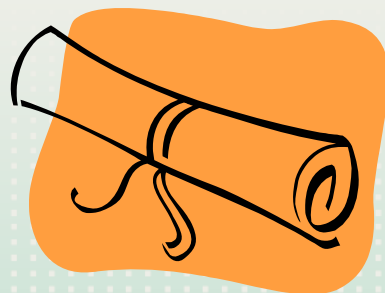


検収後、失敗コストの削減

ツールの更なる改善（web化等）

ツールメンテナンス体制の確立

品質見える化ツール導入の壁 ～乗り越えるための3つの秘訣～



Thank you